

令和6年度 県立美術館協議会 会議録

1 開催日時及び場所

日時：令和6年10月8日(火) 午後1時30分から午後3時20分まで
場所：県立美術館3階会議室

2 出席者

委員8名、事務局等11名 計19名

3 議題

- ① 令和5年度事業実施結果及び令和6年度事業について
- ② 宮崎県立美術館運営ビジョンに基づく評価について

4 質疑応答及び協議

事務局から各議題について説明等を行った後、次のような質疑応答、協議が行われた。

【令和5年度事業実施結果及び令和6年度事業について】

○委員

アトリエの実績について「陶芸、工芸等」とあるが絵画もあるのか。

○事務局

陶芸の方がコンスタントに来ている。絵を描く方や、布を使った制作をされる方もいる。

○委員

昨年度、作品が購入できたのは大きかった。油彩画が収集されているレオノーラ・キャリントンの原型になるような版画作品を収集できたことは素晴らしいかった。
県民ギャラリーの利用が減少傾向にあるのはどのような理由が考えられるか。

○事務局

よく聞くのは会場の大きさについてである。ギャラリー1室を埋めるにも、ある程度の作品数が必要となるが、団体等でも会員の減少があり、県民ギャラリーを埋めるだけの作品を集めることは難しくなっているという声を聞く。コロナ禍の間の一時閉館もあり、今まで美術館を利用していた方が別の会場を見つけて、そちらを利用されている傾向もある。ただし、減ったことで使用時期等、要望に応じて使いやすい状況となっはいる。

○委員

アートボックスの活用では、小中学校の家庭教育学級やレクリエーションでクラス単位の活動をする場面があるが、こういったケースでも貸し出してもらえるのか。可能であれば、周知しているのか。

○事務局

貸出は学校を想定していた。来館された場合は、学校以外の福祉施設等でも活用している実績はある。学校以外での利用に関しても前向きに検討し、広く活用していただけるように広報していく。

○委員

アートボックスの貸出での利用が8校と、かなり限定されていると思う。内訳を教えてください。利用された方からはこういった感想や反響があるか。

○事務局

宮崎市内の小中学校が多いが、都城市の学校等でも活用している。学校職員に向けた周知は行っており、大学や放課後デイサービスの方々からも使用したいという意見がある。窓口は徐々に広がってきている。

○委員

アートボックスを使ったことがある。児童と一緒に美術の鑑賞の在り方や個々を認め合うという点で素晴らしいものだった。今回更新されてきれいになった物を多くの学校等で使ってもらうことは非常によいことだと思う。

【運営ビジョン評価について】

(1) 収集・保存について

○委員

基金を活用した購入をこれからも考えてほしい。

○事務局

対象作家や作品の人気の高まりや物価高による価格高騰もありなかなか難しいところもあるが、収集についても基金を活用したものを計画的に行いたい。

○委員

保存環境について、I P M（薬剤に頼らない虫菌害等への対応）に関することはきちんと書き込んだ方がよいのではないか。

○事務局

薬剤での対応を行っているが、I P Mについては日々の清掃による管理や、虫等を入り込ませないこと等に取り組んでいる。

○委員

大きな地震があったが、館に影響はなかったか。地震対策の尺度になる。

○事務局

特別展開催中で、重量物を懸架展示していたが影響はなかった。コレクション展示室でも絵画や彫刻がずれたり倒れたりすることもなかった。スポット照明の向きがずれたものもあったが、作品等には影響なかった。建物では、東側正面玄関床が一部隆起したりする等の被害が出た。

(2) 調査研究について

○委員

調査研究の①が評価Dだが、前回（令和4年度実績）では論文を2本作成されている。③の作品解説等の執筆の課題も踏まえて、職員の負担を考えて今後の見通しとしてはどうなっていくのか。働き方改革も叫ばれているが、改善策はどう考えているのか。

○事務局

日々の業務の中では、調査研究や作品解説執筆まで行うための時間が充分でない。長期的な取組ということで業務の中で時間を確保してほしいと課員に伝え対応している。

○委員

発想を逆にしてほしい。美術館の意義から考えて調査研究を優先するべきではないか。

○事務局

調査研究については大切にしていきたい。

(3) 展示について

○委員

展示の自主企画は、調査研究とも連動している。学芸の方々が調査研究に基づいてよい企画ができるような環境を整えてほしい。コレクションも充実しているので、それらを発信するような企画展を開催してほしい。

○委員

コレクション展への導線として、階段にカラフルな足型シールがある。孫と一緒に来た際、あのシールのおかげで展示室へ楽しんで行くことができた。もう少しコレクション展示室まで伸ばしてもよいのではないか。

たのしむ美術館は、鑑賞の楽しさをもっと味わえる点で確かなものだった。毎年、改良されている。個人的には水墨画のコーナーで、家族の語らいが生まれ、楽しく鑑賞・体験した。毎回工夫を重ねており、A評価でもよいと思う。

○事務局

毎年楽しみにしているという意見をいただいている。「子供から大人まで誰もが楽しめる」をコンセプトにしており、来館者からは「子供のために連れてきたが、大人も子供と一緒に楽しむことができてよかった」等の意見をいただいた。今後もよりよい展示の在り方について、工夫を続けていきたい。

(4) 教育普及について

○委員

「旅する美術館」で、開会式以外の小中学校の団体観覧がなかったようだ。開催時期が学校の忙しい時期と重なっているため、参加しやすい時期に開催できないか検討してはどうだろうか。また、幼稚園や保育園、児童クラブやデイサービス等、学校以外に焦点を当ててはどうか。

○事務局

展示環境が整った施設以外でも開催するため、温湿度の変化の少ない10月～11月に時期を限定せざるを得ない。幼稚園や保育園、児童クラブ、高齢者施設等への広報は、事業を組み立てていく上で貴重な意見として受け止めたい。

○委員

館外での講座については評価の難しさを感じる。年間目標が200人だが、満足度は高いのに目標を満たしていないため低い評価となっている。館外展示での観覧者数は開催市町

村の人口に反映されるので、人口の多い地域と少ない地域等、開催地の組み合わせに工夫が必要。高千穂町の415人はすごいと思うが、椎葉村の285人が少ないかと言われるばそうではないと思う。

○事務局

人数については成果の一つとしているが、今回の評価は開催数という部分で見たい。

(5) 広報・発信について

○委員

今回配付された広報物もそうだが紙媒体が多い。美術館らしく色鮮やかでよいと思うが、ペーパーレス化や予算等を考慮して紙媒体以外のものを検討してはどうか。

○事務局

広報物等については予算が厳しい部分はある。印刷物を各地に広報として掲示してもらう等、現時点では印刷物は広報として非常に有効である。デジタルも活用していくが、紙も活用していきたい。予算もそのために確保したい。

○委員

ポスター・チラシといった広報物は、それ自体がデザインであり、SNSにあげる等重要な物で、美術館ではこれからもなくなることはないと思う。

別件だが、アンケートの状況はどうか。何を見て展覧会に来たのか、満足度評価等を継続して確認できる資料があるとよいと思う。量的な評価ではなく質的な評価につながっていくと思う。

○事務局

質的な評価について、実際に来場者アンケートをとっている。概ね好評だが、中には厳しいご意見もある。今後、評価を工夫できればと思っている。

○委員

ホームページのアクセス数が増えているのはよいことだと思う。若い人はネット中心なので、それが入場数の増加につながっていけばよいと思う。

(6) 連携・参画について

なし

(7) 人材育成について

○委員

博物館実習の受入れに関しては、大学のカリキュラムの関係もあり長期実習は難しくなってきた。博物館との関連もあり、短くしづらい部分もあると思うが、現状にあった実習のあり方を検討ほしい。

○事務局

今年は8日間で行っていたが、台風の影響で6日半に短縮となった。今後も職員の業務等のバランスも考え日数を検討していきたい。

(8) 管理・運営について

なし

【令和5年度実績に係る宮崎県立美術館運営状況評価】（委員総意による外部評価）

- (1) 収集・保存 . . . A
- (2) 調査研究 . . . B
- (3) 展示 . . . B
- (4) 教育普及 . . . A
- (5) 広報・発信 . . . A
- (6) 連携・参画 . . . A
- (7) 人材育成 . . . A
- (8) 管理・運営 . . . A

【その他】

なし

【協議、意見交換等】

○委員

美術館に3点お願いがある。

1点目は、県美展の歴史をまとめたものを作ってほしい。みやぎき総合美術展以前の県展は、当初、博物館から依頼を受けて私たちが作品を展示する形で開催された。それから県美術展へと展開していったが、これらの歴史をまとめてほしい。宮日総合美術展もこれまで2/3程度がまとめられていたが、後半部分をまとめるよう話したところである。

2点目は、みやぎき総合美術展の審査員についてである。昨年度のみやぎき総合美術展では高校生が大賞を受賞したが、受賞者を指導した教諭は落選となった。昨年度の審査員は抽象画の意向が強いため、そのような事態が起こったのではないだろうか。絵画の審査員は2人選ばれる。総合的に審査できる人を選んでほしい。

最後に3点目は、山梨県立美術館の収蔵作品を展示したミレー展を実現してほしい。向こうが休館するとき等のタイミングを見て開催できないだろうか。ミレー展を宮崎県立美術館が開催したら爆発的な展覧会になり、これまでにないほど多くの観覧者が訪れると思う。ミレーを嫌いという人は絶対にいないと思っている。